服装に対する評定の信頼度の検討
写真を提示試料とした場合

Examining Reliability of Clothing Evaluation
In Case of Presenting Photograph

(1998年3月31日受理)

宇野　保子　Yasuko Uno
山本　昌子　Masako Yamamoto
中野　慎子　Chikako Nakano
山田千賀子　Chikako Yamada
黒田喜久枝　Kikue Kuroda
藤原　康晴　Yasuharu Fujiwara

Key words：服装評価　clothing evaluation，信頼度　reliability
相関係数　correlation coefficient

1．緒　　言

従来，服装を判定する方法として，スライド写真を刺激としたSD法が用いられてきた。これは評定者が服装から受けたイメージを形容詞対で測定しようとするもので，多くの場合この方法で行った1回の評定結果をその服装の判定としている。

しかし，SD法による服装評価を，視覚的にとらえられた総体的な印象としてのイメージの評価と考えれば，このイメージを形成する要素として，形態，色柄，生地，着用者の容貌やポーズ等があげられ，各評定者は，これらの各要素に独自の重み付けをしてイメージを形成していると考えられる。このようにして形成されるイメージは，直感的，感覚的なものであり，あいまいさを含んだものである。このためどのような要素に着目して，どのような重み付けをしてイメージを形成しているのかは，個人差が大きいばかりではなく，同一評定者であっても，場所，時間，その時の気分などによって異なってくると考えられる。筆者らはこれを「個人内差」と考え，「個人内差」を含む服装の判定には，同一評定者が同じ服装を見て，

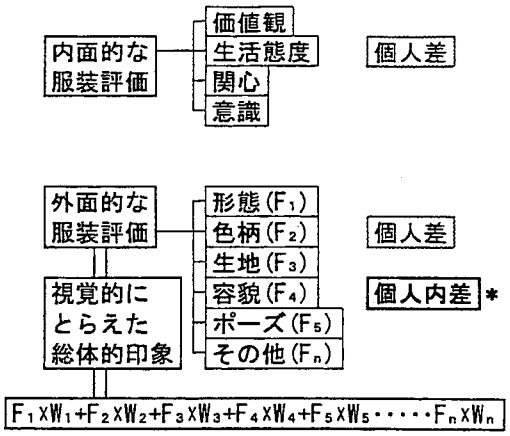

図1　個人内差の概念

同じ尺度で判定した測定値の再現性を検討する必要があると考え，“服装に対する評定の信頼度の検討”の研究に取り組んできた。

第１報として，平成８年10月103名の女子学生を対象に，16のスライド写真，12の評定尺度を用いて，計４回の評定を行い，相互に６通りの組み合わせで，２回の評定結果を評定者ごと，評定尺度ごと，服装ごとの相関係数に表わし，再現性を検討してきた。この結果は，平成９年度繊維機械学会年次大会で発表した。

本報では，提示条件の定まりにくいスライドに変えて，各評定者ごとに同一の10枚一組の服装写真を提示試料として13のSD尺度（７段階）を用い，１週間の間隔をおいて合計２回の評定を実施し，前報と同様の分析を行った。

2．方　　法

2－1．評定方法

平成９年７月，関西地方の女子短大生160名（夙川学院，相愛女子，近畿大学豊岡，池の坊，中国の計５短大）を対象に，10種類の服装をA6判のカラー写真で提示し，13のSD尺度（７段階）を用いて評定を行った。１回目の評定の後一週間後に，同一評定者に同様の方法で２回目の評定を行った。

提示試料とした服装写真の選定にあたっては，まず女子学生の愛読しているファッション雑誌を予備調査し，これらの雑誌の中から学生が「休日の外出や，通学などの日常着」として着用したい服装を示してもらい，共同研究者らで10服装を選定した。服装の内訳は，ジーンズ２体，パンツスーツ２体，ブレザーとパンツ，ブレザーとミニスカート，ミニのワンピース，ミニのワンピースにブルゾン，ロングのワンピース，シャツブラウスとロングスカートの計10体で，デザインや着装など偏らないように配慮した。10試料の出典は，表１に示すとおりである。これらの写真は大きさをそろえてモデルの顔を隠して10枚一組で評定者人数分用意した。SD尺度については，関係の文献を参考に13尺度を選定した。

評定については，各評定者に10枚一組の服装写真と，服装評価の記入表（図２）を配り，印刷した次のような教示に従い評定を進めた。

① まず，10枚の服装写真をならべ全体を一通りながめてください。

② 次にどんな順序でもかまいませんので，束ねてください。

③ 束ねた服装写真を上から順に一枚ずつみて，各服装を１から13の観点から評価してください。

④ 評価用紙の服装番号の欄には，評定する服装写

表１　服装写真の出典

	雑誌名	発行年	出版社
1	ViVi	1996.9	講談社
2	JUNIE	1996.10	扶桑社
3	With	1996.10	講談社
4	AnAn	1996.8	ﾏｶﾞｼﾞﾝﾊｳｽ
5	JUNIE	1996.10	扶桑社
6	So-en	1996.9	文化出版局
7	non-no	1996.9	集英社
8	Pee Wee	1996.9	ｿﾆｰｽﾞﾏｶﾞｼﾞﾝｽﾞ
9	JUNIE	1996.10	扶桑社
10	Ray	1996.9	主婦の友社

真の記号を書いてください。

⑤　10枚の服装すべてについて同様の方法で評定してください。

このような評定を一週間後にもう一度実施し，再現性の基礎データとした。

服装評価の記入表

整理番号 2-　　服装番号 2-

	1 非常に	2 かなり	3 やや	4 どちらでもない	5 やや	6 かなり	7 非常に	
1. 若々しい	├	┼	┼	┼	┼	┼	┤	大人っぽい
2. しゃれた	├	┼	┼	┼	┼	┼	┤	やぼったい
3. スポーティ	├	┼	┼	┼	┼	┼	┤	ドレッシィ
4. 派手	├	┼	┼	┼	┼	┼	┤	地味
5. ゆったりした	├	┼	┼	┼	┼	┼	┤	きゅうくつ
6. 大胆	├	┼	┼	┼	┼	┼	┤	繊細
7. 活動的	├	┼	┼	┼	┼	┼	┤	落ちついた
8. 上品	├	┼	┼	┼	┼	┼	┤	下品
9. 軽快	├	┼	┼	┼	┼	┼	┤	重々しい
10. ファショナブル	├	┼	┼	┼	┼	┼	┤	時代おくれ
11. モダン	├	┼	┼	┼	┼	┼	┤	クラシック
12. 個性的	├	┼	┼	┼	┼	┼	┤	平凡
13. 着たい	├	┼	┼	┼	┼	┼	┤	着たくない

図２　服装評価の記入表

２－２．分析方法

まず160名の評定者について10服装13尺度の１回目と２回目の評定値の相関係数を求め，その相関係数が，統計的に有意でないものを次の分析対象から外した。該当するものが4例あったのでこの４データを除外した156データについて，評定尺度ごとの相関係数，各服装ごとの平均値の相関係数を求め，再現性を検討した。統計ソフトは SPSS 6.1j for Windows を使用した。

3．結果および考察

3－1．評定者の判定の信頼度

評定者の判定の信頼度を検討するために，評定者ごとに2回の評定結果の相関係数を求めた。

図3は160名の評定者について，10服装13評定尺度にわたる評定結果の1回目と2回目の相関係数を求め，ヒストグラムに表したものである。相関係数は，0.03から0.93に分布し，平均で0.60となった。このうち，0.03から0.22に分布する4データは，統計的に有意でないものとして分析対象から外して，次の尺度ごと服装ごとの分析を行うこととした。図4は，4データを外した156名のヒストグラムである。平均が0.61，標準偏差が0.12となり，正規分布に近づく。

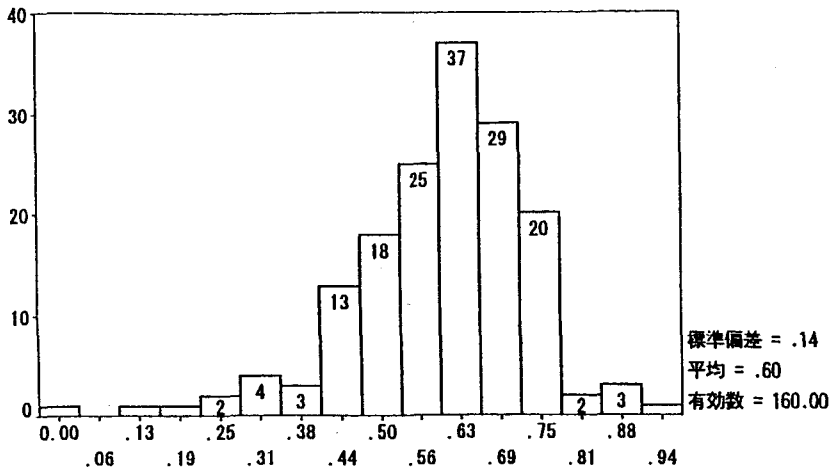

図3　評定者（160名）の相関係数

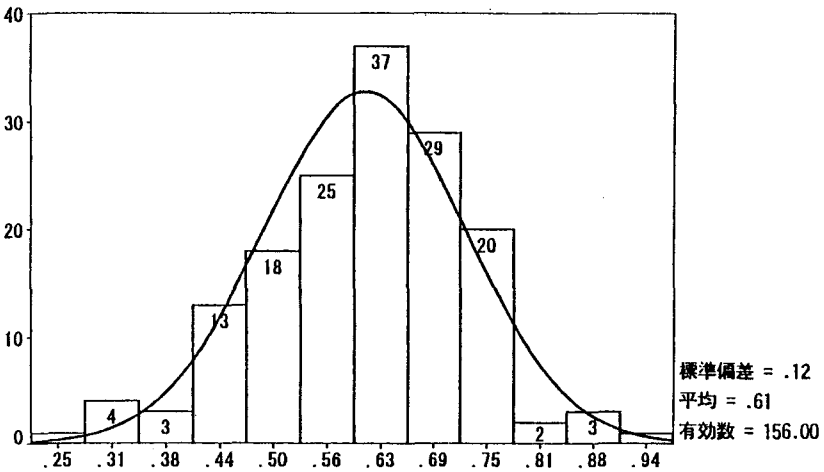

図4　再現性の高い評定者（156名）の相関係数

3－2．評定尺度別評定値の再現性

評定尺度による１回目と２回目の評定の違いをみるために，評定尺度ごとに各服装の相関係数を求めた。**表２**は，再現性の良くない4データを外した156名について10服装13項目のそれぞれの１回目と２回目の相関係数を出したものである。相関係数は，0.15から0.78の範囲に分布し，F1K6‥0.15，F2K8‥0.15，F3K8‥0.17，F8K6‥0.15の４データに統計的に有意でない低い相関係数がみられた。いずれも「大胆－繊細」「上品－下品」の評定尺度に係わる項目であった。

表２　評定尺度ごとの各服装の相関係数

	K1	K2	K3	K4	K5	K6	K7	K8	K9	K10	K11	K12	K13
F1	0.35	0.43	0.46	0.53	0.37	0.15**	0.37	0.37	0.39	0.52	0.26	0.28	0.68
F2	0.43	0.61	0.50	0.44	0.38	0.33	0.43	0.15**	0.27	0.59	0.35	0.54	0.77
F3	0.46	0.62	0.38	0.44	0.39	0.26	0.33	0.17*	0.41	0.61	0.50	0.27	0.71
F4	0.24	0.50	0.46	0.36	0.35	0.39	0.48	0.34	0.48	0.41	0.41	0.41	0.68
F5	0.56	0.56	0.61	0.49	0.43	0.50	0.29	0.42	0.47	0.67	0.46	0.69	0.74
F6	0.43	0.53	0.49	0.50	0.47	0.34	0.42	0.23	0.35	0.61	0.43	0.52	0.78
F7	0.44	0.49	0.41	0.34	0.28	0.45	0.42	0.37	0.42	0.62	0.33	0.60	0.66
F8	0.48	0.51	0.51	0.50	0.46	0.15**	0.57	0.35	0.33	0.57	0.46	0.53	0.72
F9	0.21	0.66	0.45	0.54	0.48	0.55	0.49	0.33	0.55	0.72	0.60	0.55	0.75
F10	0.27	0.68	0.56	0.54	0.43	0.50	0.58	0.40	0.30	0.52	0.42	0.61	0.76
	0.39	0.56	0.48	0.47	0.40	0.36	0.44	0.31	0.40	0.58	0.42	0.50	0.73

** P>0.05　　* 0.01<P<0.05

評定尺度の平均の相関係数は，**表３**に示すとおり0.31から0.73の範囲に分布し平均で0.46，総合評価の「着たい－着たくない」が0.73と高い再現性をしめしている。このほか相関係数の高い評定尺度項目は，「しゃれた－やぼったい」の0.56，「ファショナブル－時代遅れ」の0.58，低い項目は「上品－下品」の0.31，「大胆－繊細」の0.36であった。第１報のスライド写真を使った評定でも，「しゃれた－やぼったい」が0.60，「ファショナブル－時代遅れ」が0.59と，他の評定尺度よりも高い再現性を示しており女子学生を対象とした場合の再現性の高い尺度項目と考えられる。

表３　評定尺度項目ごとの相関係数

1	若々しい－大人っぽい	0.39
2	しゃれた－やぼったい	0.56
3	スポーティー－ドレッシィ	0.48
4	派手－地味	0.47
5	ゆったりした－きゅうくつ	0.40
6	大胆－繊細	0.36
7	活動的－落ち着いた	0.44
8	上品－下品	0.31
9	軽快－重々しい	0.40
10	ファショナブル－時代遅れ	0.58
11	モダン－クラシック	0.42
12	個性的－平凡	0.50
13	着たい－着たくない	0.73
	平均	0.46

3－3．服装別評定値の再現性

提示試料とした服装写真によって評定値の再現性に違いがあるかどうかを見るために服装ごとの評定平均値の相関係数を求めた。表4は，10種類の服装ごとに，156名の13項目の評定値の平均を求め，これを入力データとして1回目と2回目の服装ごとの相関係数を求めたものである。

相関係数は，0.92から0.98の範囲に分布し，服装によりばらつきはみられるが平均で，0.97と高い相関を示した。

表4　服装ごとの相関係数

服装	相関係数
1	0.98
2	0.98
3	0.97
4	0.97
5	0.92
6	0.98
7	0.93
8	0.98
9	0.98
10	0.98
平均	0.97

4．要　　約

個人内差を含む服装の評定には，測定値の再現性を検討する必要があると考え，同一評定者に，1週間の経過を経て同じ服装評定を行い2回の評定結果の相関係数を求めたところ次の数値を得ることが出来た。

1）評定者の判定の再現性

評定結果の相関係数は0.03～0.93，平均で0.06

2）尺度別評定値の再現性

再現性の良くない評定者を外した評定値の相関係数は0.03～0.73で，平均は0.46

3）服装別評定値の再現性

再現性の良くない評定者を外した評定値の相関係数は0.92～0.98で，平均は0.97

またこれらの結果から

4）ＳＤ法による評定の場合再現性の低い評定者の取り扱いを十分に検討する必要がある。

本報の場合160名中4名の評定が，統計的に有意ではなかった。

5）再現性の有意な評定者の評定結果であっても，服装や，評定尺度により有意でない場合もある。

本報の場合130例（10服装＊13尺度）中，4例がこれに相当した。

6）評定尺度により再現性に違いが見られた。

本報の場合「ファショナブル－時代遅れ」「しゃれた－やぼったい」の尺度項目が高く，「上品－下品」「大胆－繊細」の項目が低かった。

これは，評定者の属性に影響されると考えられ，ＳＤ法による評定の再現性を高めるためには，評定者と，尺度項目の関係をさらに検討する必要がある事が示唆された。

5．引用文献等

1）岩下豊彦：SD法によるイメージの測定．川島書店，1983

2）亀山貞登：デザインと心理学．鹿島出版会，1967

3）近江源太郎：造形心理学．福村出版，1984
4）三浦，難波，桑野，村石，大川：オフィスビルディングの概観の印象とその規定因．
Vol.32，No1（'96）